

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川の利用

斐伊川の水面利用（舟運）は、宍道湖流入点より木次町までは主に貨物輸送に利用されていたが、鉄道や道路の整備に伴って徐々に衰えはじめ、大正5年の宍道～木次間の鉄道開通により、ほとんど見られなくなった。宍道湖から下流域水道に至る区間においては、重要港湾境港をはじめ、地方港湾の松江港、安来港、米子港および漁港等が多数あり、漁船をはじめ貨物船の定期・不定期便の航行が盛んである。

また、斐伊川の河川利用については、上・中流域では鬼の舌震県立自然公園や龍頭八重滝県立自然公園が存在しており、豊かな自然環境を活かした溪流釣りやキャンプ場などの自然利用が主体であり、木次桜まつりは、桜名所百選に選ばれている。山間部を抜け中流部に下ると、出雲市街地を中心として高水敷の一部が整備され、運動広場、河川公園、ゴルフ場等の施設の利用や散策、アユ漁などに利用されている。

神戸川では、上流部は立久恵峡県立自然公園や豊かな自然環境を活かした溪流釣り、キャンプ等を主体に利用されており、落ちアユを対象とした四つ手網漁が行われている。

また、建設中の尾原ダム、志津見ダムではそれぞれ、尾原ダム湖まつり・菜の花祭り・そば打ち交流会・植樹祭、ポピー祭り・コスモス祭りなど各種の地域交流イベントが実施されている。

宍道湖および中海では、その広大な水面を利用したヨット、ボートセイリング、レガッタ、釣り等の水面利用が特徴である。また、湖岸の散策やバードウォッチング等自然環境を楽しむ人も多く、湖岸沿いに存在する宍道湖グリーンパーク、県立宍道湖自然館ゴビウス、米子水鳥公園などは自然学習などにも活用されている。

さらに、斐伊川と関連の深い祭も数多く行われている。代表的なものを表7.1に示す。

表 7.1 斐伊川に関係の深い祭事

名 称	市町村名	場 所	備 考
いずもオロチまつり	出雲市	斐伊川河川敷	
みなと祭	境港市	境水道	
平田七夕祭り	出雲市	一部平田船川	旧平田市
ホーランエンヤ(船神事)	松江市	宍道湖・大橋川	
松江水郷際	"	宍道湖沿岸	
灯籠流し	"	宍道湖・大橋川	
恵比須まつり	雲南市		旧木次町
木次桜まつり	"	斐伊川河川公園	旧木次町
七福神祭り	"	斐伊川河川公園	旧木次町
蓮華祭	松江市	宍道湖沿岸	旧宍道町
七福神祭り	松江市	支川玉湯川	旧玉湯町
ポピー祭・コスモス祭	飯南町	志津見ダム	旧頓原町



ホーランエンヤ祭

出典：社団法人 島根県観光連盟所有 資料



木次桜まつり

出典：出雲河川事務所所有 資料



ポピー祭（志津見ダム）

出典：斐伊川神戸川総合開発工事事務所所有 資料



灯籠流し

出典：社団法人 島根県観光連盟所有 資料



神立河川公園

出典：出雲河川事務所所有 資料



米子水鳥公園

出典：出雲河川事務所所有 資料



宍道湖水面利用

出典：出雲河川事務所所有 資料



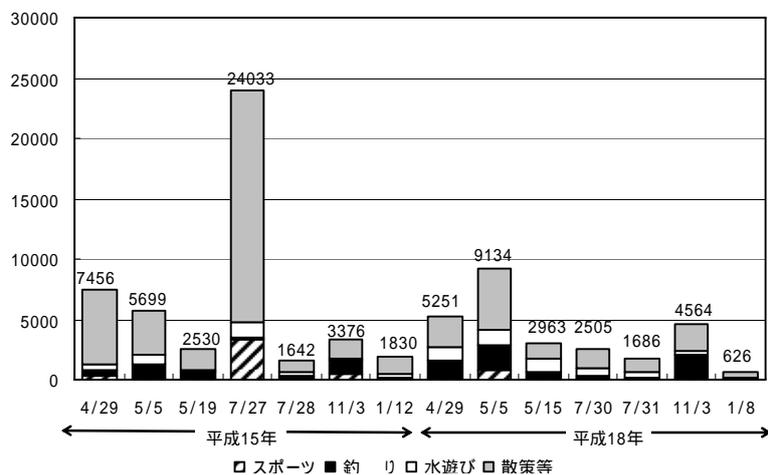
四つ手網漁

出典：出雲河川事務所所有 資料

7.2 河川の利用状況

平成18年度に実施した「河川空間利用実態調査」によれば、年間利用者総数（推計）は約86万人で、沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は、約1.2回/人となっている。

利用形態別の傾向は『散策等』がおよそ半分を占め、次いで『釣り』の割合が多い。



(人)

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成15年度	平成18年度	平成15年度	平成18年度
利用形態別	スポーツ	80	39	散策等(48%)	スポーツ(11%)
	釣り	260	157		
	水遊び	53	143		
	散策等	366	519	水遊び(7%)	釣り(34%)
	合計	759	858	水遊び(17%)	釣り(18%)
利用場所別	水面	34	97	堤防(39%)	水面(4%)
	水際	279	211		
	高水敷	152	132		
	堤防	294	418	高水敷(20%)	水際(37%)
	合計	759	858	高水敷(15%)	水際(25%)

出典：出雲河川事務所所有 資料